

モーツァルト《フィガロの結婚》のスザンナ役の演技方
—様式観と作曲者の音楽観から探る—

On the way to express Susanna's character of "*Le nozze di Figaro*"
:from the viewpoint of Mozart's music style and his philosophy.

音楽文化研究科 音楽表現専攻 07-1012 小林 絵里香

本研究は、モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart, 1756-1791) のオペラ《フィガロの結婚 *Le nozze di Figaro*》(1786 年初演) に登場するスザンナ役の人物像を明らかにし、その演技方を追求していくものである。

まず、モーツァルトの書簡の中からオペラ作曲に対する考えや音楽観を読み取り、彼の新作オペラの構想を明らかにした。また《フィガロの結婚》の作曲時、その創作に深く関わったオペラの台本作家であるロレンツォ・ダ・ポンテ (Lorenzo Da Ponte, 1749-1838) によって後に書かれた回想録も参考にし、二人の協力的な創作を辿った。

次に、オペラの原作者であるピエール・オギュスタン・カロン・ド・ボーマルシェ (Pierre Augustin Caron de Beaumarchais, 1732-1799) の原作で描かれたスザンナの人物的特徴や役どころについての記述から、スザンナの性格付けを明らかにした。また、オペラ内に登場する人物たちとスザンナのやりとりを台本から読み解き、彼女の感情の移り変わりや、言葉に込められた複数の感情やその意味を考察し、その人物像は有能な召使で、明るく思いやりのある女性であることが分かった。主役ではないが全幕を通じ、休むことなく登場する頻度の高さから、スザンナは必然的に観客の注目を集めるオペラの中心的人物であるといえる。つまりスザンナは《フィガロの結婚》という喜劇的なオペラの性格を示す役割を担う存在であることが分かった。

このことは、スザンナの人物的特徴や彼女の内面性を映し出す言葉や表情、動作や仕草を演技手が工夫し効果的に演技れば、オペラ全体を無限に輝かせることが可能であるといえる。魅力的なスザンナ役を演ずるためには、作品の内容や創作者の意図を深く理解することが必要である。この研究を通じて、スザンナの優しさ、賢さ、機知に富んだ性格に加え、演奏者の知識に基づいた豊かな解釈を織り込み、これをどれだけ表現できるか、という大きな課題を発見することができた。今後も更に研究を重ね、筆者の演奏の支柱となるような成果を得たいと考えている。